



駒場・駒場野の変遷

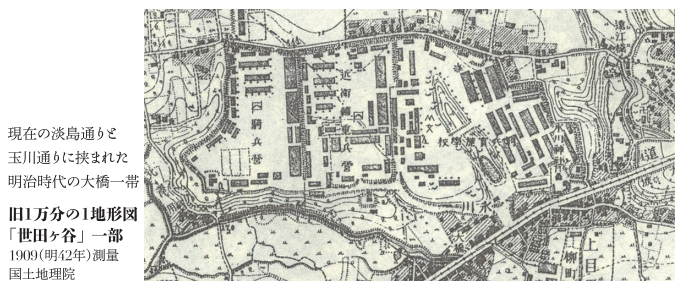
現在の駒場から井の頭線をまたいで淡島通り、さらに南下して大橋、玉川通りをこして、東山あたりまでを、かつては、駒場・駒場野ともいわれていたように、江戸時代は將軍家の鷹狩の獵場として、この駒場野は使用されてきた。駒場御狩場(約15.5万坪)は三田用水を北限として、南は井の頭線をまたいで日本工業大学駒場高辺りま



「江戸名勝図会 駒場野」 国立国会図書館所蔵

で。中心は現在の東大駒場キャンパスでこの辺りは水源が豊かで、笹が生い茂る草原(芝地)で、將軍直属の旗本が、鎧甲冑に身を包み徒歩を伴い、將軍の下知の下、駆け回ったと言われています。まあ、練兵場の様なものでしょう。この西側の現東大駒場IIキャンパスはかつて、森林(さらりと整備されていた)で、ここを巻狩りに使用していたようです。この駒場御狩場に隣接する形で、管理事務所的な御用屋敷(約5.5万坪)がありました。しかし、幕末には駒場御狩場は二時幕府陸軍の洋式訓練場となりました。さて、明治になると、このエリアは思わぬ発展を遂げます。草原には校舎、森林には林業や農業の試験農園という利用から、明治10年に駒場農学校が開校します。以後この駒場は日本有数の文教地区として現在に至っています。なお、関東大震災後、

本郷の東京帝国大学整備のため、前田家本郷邸はこの地に移転してきました。敷地の真中に約5万坪を取得し、前田家邸宅、及び使用人の住居を建築しました。一方、御用屋敷・淡島通り一帯は、明治の富国強兵政策に伴い、軍事施設へと変貌していきます。このエリアは江戸時代と同じ用途です。明治24年にまず騎兵第1大隊(後に連隊)、翌年は近衛輜重兵大隊第1中隊が、兵營を築き、陸軍乗馬学校後の陸軍騎兵学校も麹町から移ってきました。また駒場練兵場も作られました。騎兵山という名が示す通り、多くの騎兵がこの辺りを馬で闊歩していたようです。明治30年、南北は現在で言う、



現在の淡島通りと玉川通りに挟まれた明治時代の大橋一帯

旧1万分の1地形図「世田ヶ谷」一部 1909(明治42年)測量 国土地理院



めぐろWALK ウォーク まち歩きMAP

K O M A B A
駒 場 編

“駒場東大前”から “池尻大橋”を歩く、江戸から明治へと繋がる歴史の旅

発行

めぐろ観光まちづくり協会
Meguro Tourism Association
<http://meguro-kanko.com>

めぐろ WALK ウォーク まち歩きMAP

K O M A B A
編 駒 場

「駒場東大前」からスタート、「池尻大橋」までを歩きながら、江戸から明治、現代へと繋がる近代日本の歴史に思いを馳せるまち歩き旅をお楽しみください。

駒場東大前駅

A 駒場Iキャンパス
徒歩約1分

現在、東京大学教養学部のあるこの地は、かつて駒場農科大学があり、大正には東京帝国大学農学部へと変わり、昭和初期には第一高等学校となり、第二次世界大戦後は東京大学教養学部が設置されたわけですが、明治以降一貫して学園の府であったことに変わりはありません。この敷地内には多くの歴史的建造物が残されています。
(詳細はめぐろWALKs Vol.10をご覧ください)

B 尊経閣文庫

駒場公園正面入り口の右に、尊経閣文庫があります。ここでは日本の図書館(古典文庫)の中では質的に群を抜いており、漢詩4100部、和書7500部、文書25000点を所蔵し、その中には国宝22件、重要文化財76件を含みます。昭和3年(1928年)に加賀前田家第16代利為により設立されました。残念ながら一般公開はしていません。国の外から見えるこの建物は、国指定重要文化財(建造物)です。

C 旧前田家本邸洋館

関東大震災後、本郷の帝大はキャンパスが手狭のため、前田家等に借交換の申し入れをし、本郷約12万坪から駒場(約5万坪)へ前田家は移ってきました。平成25年(2013年)、本邸を構成する八棟(洋館、和館、洋館渡廊下、和館渡廊下、茶室待合、和館門及び塀、門衛所、正門及び塀)とその敷地全体が、「旧前田家本邸」の名称で国指定重要文化財(建造物)となりました。洋館建設は大正15年から昭和4年まで行われました。その当時の最高技術が導入されており、地下厨房から配膳用の小型エレベーターが設置されていたそうです。イギリス・チューダー様式のデザイナーが採用されています。平成28年7月1日から平成30年9月末まで(予定)保全整備工事の為、一時休館となります。

D 旧前田家本邸 和館

和館は昭和5年に竣工しました。洋館とは渡り廊下でつながっている。徒歩約2分
0313466016725
時間 9時~16時
休 月曜日

E 日本近代文学館

外国人来賓の接待用に建築されたものと言われており、本郷にあった本邸の建築部材を再利用して作られているそうです。徒歩約2分
031346814181
時間 9時30分~16時30分
休 日・月曜日
第4木曜日・年末年始
2月と6月の第3週
高見順、小田切進ら有志の文学者・研究者が必要性を強く訴え、1967年4月現在地に開館した。散逸のほはだしい近代文学関係の資料を収集し、

駒場野狩場

- 1号館(旧一高本館)
- 駒場博物館(旧一校図書館)
- 矢内原門跡
- 「歴史ギャラリー」パネル
- 農学部マンホール
- 一高マンホール
- 900番教室(旧一高講堂)
- 「一高ここにありき」碑

G ケルネル田んぼ

- 駒場農学碑
- ファルティハウス(旧一高同窓会館洋館)
- 嗚呼玉杯之碑
- ファルティハウス
- プロンズ像
- 銀杏並木

17000点に及び特に朝鮮李朝時代の各種工芸、沖縄の紅型、台湾高砂族の蕃布、英国中世の陶器などのコレクションが有名です。また展示のみならず、民芸の調査研究・講演会・図書刊行なども新しい生活工芸の普及を目指し、多くの活動を行っています。(有料)

J 天覧台碑

この田んぼは目黒区内に残された唯一の水田です。ドイツ人のオスカークネルは駒場農学校の教師として、教鞭をとり、日本で最初に化学肥料の使用を試みた。彼が、空川の谷間に作った実験水田がケルネル田んぼとして、今に残っています。毎年秋に行われるかかしコンクールは井の頭線からの車窓を楽しませてくれます。

K 馬神碑

この地域はかつて、「騎兵山」とよばれ、明治24年から騎兵第一大隊が駐屯していました。騎兵と馬とは切っても切れない関係で結ばれていました。この碑は戦没軍馬を慰霊するため建てられたものです(昭和5年建立)。今も周辺の人から大切に守られており、いつも人參が供えられています。

M 大橋水川神社

旧上目黒村の鎮守として、天正年間(1573年~1592年)に建立された。旧大山街道に面しており、急勾配な参道があるが、参道下には、大山道標などがあり、また、目切坂上の目黒元富士から移された浅間の石祠、仙元講(丸日講)の碑があり、「目黒富士」と名付けられている。徒歩約15分
031349110555
時間 4~10月7時~19時
11~3月7時~17時
大橋ジャンクション
池尻大橋駅

各界からの援助によってなされた文学館です。資料閲覧のほか、定期的に文学関係の展示会が行われています。(有料)

F 日本民藝館

柳宗悦と同年末年始
031346714527
時間 10時~17時
休 月曜日

淡路通りの世田谷区との区界にあります。この地蔵を祀ることで、疫病などをペ切るこの区域にいれないことができる。と考えられ、村を区界で守っているお地蔵さんです。徒歩約5分
031346714527
時間 10時~17時
休 月曜日

H ペ切地蔵

江戸時代は駒場野の広大な原野は、徳川將軍の鷹狩場として利用されていました。狩場には御用屋敷というものが、將軍の食事や休憩所、また狩場の管理や準備をする鳥見役人が詰めていました。この御用屋敷は約5万5千坪(約18万

I 御用屋敷跡

一大隊により建てられた。大正5年に習志野に学校が移りこの場所からの閲覧は終了となった。

L 表忠碑

馬神碑とは反対側の山はだに、表忠碑が2つあります。正面は大きいもので、右は小さく、共に秋山好古の名が見られます。秋山好古は司馬遼太郎著「坂の上の雲」に登場する日本騎兵の父とよばれる人物です。日露戦争で、当時最強といわれたロシアのコサック騎兵を打ち破ったことで、歴史にその名を残しています。右の小さい碑は日清戦争での戦死者の慰霊のため明治29年6月に建立されたものです。左の碑は秋山好古が明治28年9月に建立した日清戦争の鎮魂碑と名和長憲が建立した日露戦争の鎮魂を合祀して、明治39年11月に両名が再建したものです。(進行方向むかって右に青色の鉄製階段があります。これの上がおすすめです。わかりにくいので通り過ぎないでください)

N 目黒天空庭園

大橋ジャンクションの屋上に作られた、都市公園です。ゆったりとした時間が過ごせそうです。運が良ければ富士山が見えますよ。徒歩約3分

池尻大橋駅

徒歩約3分



注:東京大学構内は学びの場ですので、授業の妨げになるようなことは慎んでください。